

科目名	観光企業マネジメント 論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			国際観光学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記	Tourism Business Management	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	つかはら ゆうじ	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	塚原 雄二	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	観光系の企業を対象として、組織、人事、財務、マーケティング等経営の諸機能を学ぶ。				
到達目標	メディア等で発表される観光系の企業の業績動向や経営戦略が理解できる素養を身に付ける。				
授業概要	観光系の企業を対象として、会社の基本機能、組織、企業統治、ESG・CSR、人事管理、財務諸表、マーケティング、ホテル・エアラインの業績管理等について学ぶ。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション（シラバスの確認） 第1章会社とは何か				
第2回	第2章 会社の組織・企業統治				
第3回	第3章 ESG, CSR の経営				
第4回	第4章 人事管理（社員区分、採用）				
第5回	第4章 人事管理（労働時間、休日）				
第6回	第4章 人事管理（給与、ハラスメント）				
第7回	第4章 人事管理（福利厚生、日本の雇用慣行）				
第8回	第5章 財務管理（財務諸表とは。損益計算書）				
第9回	第5章 財務管理（貸借対照表）				
第10回	中間テスト、 第6章 マーケティング（商品づくり）				
第11回	第6章 マーケティング（販売ルート、宣伝販促等）				
第12回	第6章 マーケティング（ブランド、常顧客プログラム等）				
第13回	第7章 ホテルの業績指標（稼働率と単価）				
第14回	第8章 エアラインの業績指標（利用率と収入単価）				
第15回	第9章 観光企業経営の本質を考える（事例研究）				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	<p>(1) 授業前に、授業用配布資料に目を通し。前回までの授業内容を復習しておくこと。その際必要に応じ、企業発信の情報や政府統計などで事実の検証を行い理解を深めること。(1.5時間程度)</p> <p>(2) 新聞等のメディアを通して観光系の企業に関わる社会や産業の動向を常時、問題意識をもって注目しておくこと。主な個別企業が発信する経営に関する情報にも注目しておくこと(0.5時間程度)</p>				
履修条件 受講のルール	ホテル、エアライン、レストラン、旅行会社等観光系企業の経営を学びたい人				
テキスト	使用しません。スライド、プリント等によって授業を行います。 授業用のプリントはその都度配布しますので欠かさずファイルしておく必要があります。 欠席した場合、その日に配布物がなかったか確認し、あった場合は、友人同士でコピーして下さい。				
参考文献・資料	<p>「人事管理入門 第2版」 今野浩一郎 日経文庫(2008)、</p> <p>「誰でもわかる最新貸借対照表・損益計算書」 三重野研一他 エクスメディア(2006)</p> <p>「コトラーを読む」 酒井光雄 日経文庫(2008)</p> <p>その他、授業の折に適宜紹介します。</p>				

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 60%、その他 40%（授業参加度、中間テスト等）を基本として総合的に評価します。 ・出席回数が規定に満たない場合および授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	<p>授業日の月曜日 18:00～18:30 授業日の火曜日 10:00～10:30、12:10～13:00</p> <p>事前にメールで、または授業の前後にリクエストしてください。</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	<p>企業において航空・ホテル・商社の、現場・人事労務・経営企画・海外勤務等に長年携わった経験のなかから体験的な事例を紹介しながら経営の論理を実感的に理解してもらえるように授業を進めます。</p>
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営は論理的でありまた人間の感情の産物でもあり、非常に面白いものです。会社経験のない皆さんにとっては、わかりにくいところもあると思いますが、「大事な知識ほど中身が退屈なもの」です。実体験のエピソードをまじえてわかりやすく説明しますので、積極的に授業に参加し、理解を深めてください。 ・やむを得ず欠席する場合、授業内容で質問のある場合、面談を希望する場合、卒業後の進路で相談したい場合、などいつでもメールで連絡してください。 yuji.tsukary@gmail.com